

---

# 建築都市デザイン学部 建築学科

---

学 部 基 盤 科 目

専 門 科 目

# 建築学科

## 人材の養成及び 教育研究上の目的

科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。

主任教授 小見 康夫

### 1. 建築学科の特性

建築学は、人間生活や社会機能を営むために、「建築」という人工環境を都市や地域に構築し、健全な都市や地域の発展に寄与することを目的とした学問である。科学技術が高度に発展した現代においては、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる「建築」を考えることが重要である。このような理念に基づき、本学科では建築・都市に関わる幅広い基礎知識を持ち、さらに各自が得意とする専門領域を持った人材を育成し、社会に貢献し得る人材を輩出したいと考えている。

本学科では工学的要素と芸術的要素の両面から総合的に「建築学」をとらえ、建築に関わる基礎知識の習得と建築学の各分野における高度な専門知識と技術の修得を意図したカリキュラムを構成している。幅広い建築学を4領域に分け、系統的・効率的に学習する。すなわち、建物の意匠や機能性に関わる「計画・設計系」、建物の材料や施工を学ぶ「生産・材料系」、建物の安全性に関わる「構造系」、建物内外の快適性や省エネルギーに関わる「環境設備系」の基礎知識を習得する。さらに、卒業研究では4領域の内の1領域についての専門知識を修得する。

建築学科のカリキュラムでは、1年次では主として工学全般の基礎学力を、2年次では建築学の専門科目のうち基礎的なものを学修し、3年次後期以降では各自の進路・適性に合せて専門性を高めていく。このカリキュラムの中では、最低限知っておくべき内容を必修科目としている。例えば、意匠設計に強く興味がある場合においても、建築構造力学、建築環境工学や建築材料科学・建築構法などの工学分野の知識は必須であり、これらの基礎知識は一級建築士の資格においても必須とされる。

### 2. 建築学科における学習・教育目標

建築学科の専門教育は、主として2年次以降に行われる。従って、1年次においては、自然科学、人文・社会科学、外国語に加えて、建築の基礎となる設計・構造力学を学習し、2年次以降、必修科目群である「建築基礎」を中心に、選択必修科目群である「建築計画・設計」「建築工学」を体系的に学修する教育方針をとっている。この方針のもとに、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者や建築技術者を養成することを目標としている。

別頁に本学科における「学習・教育目標」を示した表があるので、各授業科目がどのような学習・教育目標を掲げているかよく理解して履修してほしい。

### 3. 専門科目の履修と卒業研究

建築学科の専門科目等は、大別すると、前述の「建築基礎」「建築計画・設計」「建築工学」の3つの科目群より構成されている。それぞれ卒業のための条件が明記されているので見落としのないように注意が必要である。また、以下の点については特に十分留意して選択してほしい。

- (1) 必修科目は配当年次に修得すること。
- (2) 1年次は「学部基盤科目」を広く履修するとともに建築の基礎となる設計・構造力学を履修し、2年次は主として学科の専門科目群である「建築基礎」に配当される必修科目を履修する。3年次への進級の最低修得単位数が60であることを注意し、各科目を確実に修得することが望ましい。
- (3) 3年次以降は将来の自らの進路を考え適切な履修計画を立てること。3年次後期には各研究室へ一次配属され、「事例研究」を履修し、卒業研究への準備を行う。
- (4) 3年次終了時の必要修得単位数は100であるが、110単位以上修得しておくことが望ましい。
- (5) 4年次の卒業研究は研究室に所属して行うことになる。卒業研究(1)、(2)は、本人の適性を含め卒業後の進路に関わる重要な科目である。
- (6) 本学の大学院への進学を早い段階で希望する場合には、大学院での科目の一部を学部の段階で「先行履修」することもできる。詳細は別頁に掲げているのでよく理解してほしい。

#### 4. 卒業後と大学院

##### (1) 卒業後の進路

建築学科の卒業後の進路としては、中核をなすのは建築設計業務を行う建築設計事務所と施工管理・設計を行う建設会社である。建設会社は総合建設会社、専門建設会社、工務店があり、この設計事務所と建設会社に就職するのは学生の約70%程度である。(大学院進学者を除く)その他にはデベロッパーなどの不動産会社、建築技術系公務員(国、都道府県、市町村)、鉄道会社、一般企業の建築セクション(電機メーカー、自動車メーカー、放送会社、高速道路会社、空港など)、不動産管理会社、住宅メーカー、リフォーム会社、インテリア設計・施工会社、研究職など、建築学科の卒業生の進路は多岐に渡り、実社会のいろいろな分野での建築技術の活用が可能である。

##### (2) 大学院

4年間の学部教育の修了後、建築に対する更なる研鑽と高度な知識修得をめざす意欲のある学生のために、本学は大学院を設置し充実させている。この結果、建築・都市専攻における大学院学生数は多い。また、このことは学部における修学年限が短いことと多岐に亘る必要修得科目の多様さを物語っている。また近年の高度な知識を修得した者を求める社会からの強い要請に答えて一層の充実が図られている。現在、その構成は6領域よりなり、修了者には各々修士(工学)、博士(工学)の学位が授与される。

#### 5. 建築士について

本学科では、卒業後すぐに、一級建築士試験を受験することができる。一級建築士試験に合格の上「実務経験」が所定の年数以上あれば一級建築士免許の登録が可能となる。ここで「実務経験」とは、卒業から免許登録までに所定の業務に従事した年数である。二級建築士試験についても、卒業後すぐに受験することができ、合格すれば(こちらは「実務経験」がなくても)、二級建築士免許の登録が可能となる。

なお、本学大学院建築・都市専攻では、所定の科目の単位取得し、修了した場合、1年または2年の「建築実務」に充当することができる。建築士試験についての詳細は別頁に掲げているのでよく理解してほしい。

#### 6. おわりに

多くのひとにとって、長い人生の中で大学・学生時代は最も輝かしい時期である。大学の自由な雰囲気の中で、学修面だけではない多様な経験を積み、生涯にわたって付き合える友人を作り、共に学生生活を楽しんでもらいたい。学生時代の経験は自己を形成する上での重要な糧となり、また、人生の中で最も深い記憶となるであろう。ただし、学生として自由に振る舞い、行動する際にも、必ず責任は自分にあることを認識しなければならない。何事にも責任を感じながら「おとな」として行動する必要がある。

また、建築という分野は広範囲の知識を必要とするため、学ぶべきことが非常に多く、ときには長時間の学習で途方に暮れることがあるかも知れない。しかし、本学科で用意したカリキュラムを信じ、一步一步着実に進んでもらいたい。入学時の意気込み・初心を忘れず、自己の適性を知って進むべき方向を徐々に見出し、実り多い大学生活が送れるよう、高い意識をもって臨んでほしい。

# 2020年度 建築学科 教育課程表

学則第18条別表1-1⑧ 工学部 建築学科 学部基盤科目・専門科目 教育課程表

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目ナンバリング
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
学部基盤科目	数学系	微分積分学(1a)	○	1	1	(1)							羽賀 淳一	30-111
		微分積分学(1b)	○	1	1	(1)							羽賀 淳一	30-112
		微分積分学(2a)		1		1	(1)						羽賀 淳一	30-211
		微分積分学(2b)		1		1	(1)						羽賀 淳一	30-212
		線形代数学(1a)	○	1	1	(1)							植田 美佳	30-113
		線形代数学(1b)	○	1	1	(1)							植田 美佳	30-114
		線形代数学(2a)		1		1	(1)						植田 美佳	30-213
		線形代数学(2b)		1		1	(1)						植田 美佳	30-214
		微分方程式論	△	2			2						未定	30-311
		ベクトル解析学	△	2				2					三上 貴仁	30-312
		フーリエ解析学	△	2				2					畑上 到	30-313
	数理統計学	△	2			2						西郷 達彦	30-314	
	自然科学系	物理学及び演習(1)	○	3		4	(4)							30-121
		物理学及び演習(2)	○	3		4	(4)							30-122
		物理学(3)		2			2					A・ピアテンコ		30-221
		物理学(4)		2			2							30-222
		電磁気学基礎		2			2					須藤 誠一		30-321
		物理学実験(1)	○	1	2	(2)								30-123
		物理学実験(2)	○	1	2	(2)								30-124
		化学(1)		2	2							堀越 篤史		30-125
		化学(2)		2		2						木屋 幸蔵		30-223
		化学実験		2	(4)	4						吉田 真史 他		30-126
		生物学		2			2							30-127
	地学		2			2							30-128	
	情報系	情報リテラシー演習(a)	○	0.5	1								荒木 一 他	30-131
		情報リテラシー演習(b)	○	0.5	1								荒木 一 他	30-132
		プログラミング基礎(a)		1		1						安井 浩之		30-231
		プログラミング基礎(b)		1		1						安井 浩之		30-232
		数値解析		2				2				安井 浩之		30-331
	総合系	技術者倫理	○	2					2			勝又 英明		30-233
		インターンシップ(1)		1										30-931
		インターンシップ(2)		1										30-932
		海外体験実習(1)		2										30-933
		海外体験実習(2)		2										30-934

卒業要件	学部基盤科目	30単位	専門科目	68単位
	以下を含むこと		以下を含むこと	
	○ 必修科目	15単位	○ 必修科目	37単位
	△ 選択必修科目	2単位	△ 選択必修科目	※△1~4の合計で31単位
			内訳	△1 選択必修科目 6単位 △2 選択必修科目 2単位 △3 選択必修科目 2単位 △4 選択必修科目 ※

科目ナンバリング: YY-LMD

YY:科目区分	30:学部基盤科目		
L:レベル	1:入門	3:応用	9:その他
	2:基礎		
M:科目群	1:数学系	2:自然科学系	3:情報系・総合系
D:識別番号			



○印必修科目 △印選択必修科目

区分	科目群	授業科目	必選の別	単位数	週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目ナンバリング	
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期			
専門科目	専門教養	都市のインフラストラクチャー		2		2							皆川 勝	91-161	
	学部共通	都市計画(1)		2			2						中村 隆司	31-226	
		都市計画(2)	△1	2				2					天野 克也	31-329	
		都市デザイン	△4	2					2				高見 公雄	31-32A	
		ランドスケープデザイン	△4	1						1			高沖 哉	31-32B	
		インフラデザイン		2							2		中村 隆司 他	31-261	
		都市防災論		2			2						丸山 収 他	31-262	
		都市交通計画		2					2				秋山 祐樹	31-263	
		都市・地域分析		2						2			中村 隆司 他	31-264	
	学科共通	建築CAD演習(1)	△4	1					2				山口 勝己 他	31-211	
		建築CAD演習(2)	△4	1					2				山口 勝己 他	31-212	
		建築製図演習(1)	△4	1					2				小見 康夫 他	31-311	
		建築製図演習(2)	△4	1					2				佐藤 幸恵 他	31-312	
		建築実験	△4	2					4				佐藤 幸恵 他	31-313	
		キャリア開発	○	1			2						勝又 英明	31-161	
		特別講義(1)		2										31-265	
		特別講義(2)		2										31-266	
	特別講義(3)		2										31-267		
	建築基礎	図学	○	1	2									手塚 貴晴	31-111
		設計基礎(1)	○	1	2									天野 克也 他	31-112
		設計基礎(2)	○	1.5		3								天野 克也 他	31-113
		設計基礎(3)	○	1.5		3								天野 克也 他	31-114
		設計(1)	○	2			4							勝又 英明 他	31-221
		設計(2)	○	2			4							勝又 英明 他	31-222
		設計(3)	○	2				4						手塚 貴晴 他	31-223
		設計(4)	○	2				4						手塚 貴晴 他	31-224
		建築計画(1)	○	2			2							天野 克也	31-225
		建築材料(1)	○	2				2						佐藤 幸恵	31-231
		建築構法(1)	○	2			2							栗田 紀之	31-232
		建築構造力学基礎(1)	○	1	1									大村 哲矢	31-141
		建築構造力学基礎(2)	○	1	1									大村 哲矢	31-142
		建築構造力学基礎(3)	○	1		1								焦 瑜	31-241
		建築構造力学基礎(4)	○	1		1								焦 瑜	31-242
		建築環境工学(1)	○	2			2							小林 茂雄 他	31-151
		建築設備学基礎(1)	○	1			1							近藤 靖史	31-152
		建築設備学基礎(2)	○	1			1							藤井 研一	31-153
		建築総合演習	○	1						2				勝又 英明 他	31-314
		建築計画・設計	建築計画(2)	△1	2			2							山口 勝己
	西洋建築史		△1	2			2							福島 加津也	31-228
	日本建築史		△1	2			2							勝又 英明	31-229
	建築意匠論		△1	2						2				手塚 貴晴	31-321
	設計(5)		△4	2					4					福島 加津也 他	31-322
設計(6)	△4		2					4					福島 加津也 他	31-323	
設計スタジオ(1)	△4		2						4				堀場 弘 他	31-324	
設計スタジオ(2)	△4		2						4				堀場 弘 他	31-325	
設計スタジオ(3)	△4		2							4			堀場 弘 他	31-326	
設計スタジオ(4)	△4		2							4			堀場 弘 他	31-327	
空間デザイン演習	△4		1.5					2					堀場 弘 他	31-328	

科目ナンバリング: YY-LMD

YY:科目区分	31:建築学科 専門科目	91:専門教養科目
L:レベル	1:入門	3:応用 9:その他
	2:基礎	4:卒業研究等
M:科目群	1:建築総合	3:建築生産・材料 5:建築環境設備
	2:建築計画設計	4:建築構造 6:その他
D:識別番号		

○印必修科目 △印選択必修科目

区分	科目群	授業科目	必修 の別	単 位 数	週時間数								担当者 (2020年度現在)	科目 ナンバ リング
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期		
専門科目	建築工学	建築生産	△3	2					2				小見 康夫	31-331
		建築施工法	△3	2						2			石川 哲朗	31-332
		建築材料(2)	△4	2					2				佐藤 幸恵	31-333
		建築防災計画	△4	2						2			未定	31-334
		建築構法(2)	△2	1			1						小見 康夫	31-233
		木質構造	△2	1			1						未定	31-234
		建築構造力学(1)	△4	1			1						大村 哲矢	31-243
		建築構造力学(2)	△4	1			1						大村 哲矢	31-244
		建築構造力学(3)	△4	1			1						大村 哲矢	31-341
		建築構造力学(4)	△4	1			1						大村 哲矢	31-342
		建築構造力学(5)	△4	1					1				西村 功	31-343
		建築構造力学(6)	△4	1					1				西村 功	31-344
		鉄筋コンクリート構造	△2	2			2						大村 哲矢	31-245
		鉄骨構造	△2	2					2				西村 功	31-345
		建築構造計画	△2	2			2						東 清仁	31-246
		地盤と基礎	△4	2					2				古垣内 靖 他	31-346
		耐震・耐風構造	△4	2						2			焦 瑜	31-347
		建築構造設計	△2	2							2		三町 直志	31-348
		建築環境工学(2)	△4	2			2						近藤 靖史	31-251
		建築環境工学(3)	△4	2					2				岩下 剛 他	31-351
	建築設備学	△4	2					2				藤井 研一	31-252	
	建築設備学応用	△4	2						2			藤井 研一	31-352	
	建築音響学	△4	1					1				井上 論	31-353	
	建築工学モデリング(1)	△4	1					1				近藤 靖史 他	31-315	
	建築工学モデリング(2)	△4	1					1				西村 功 他	31-316	
	卒業研究 関連科目	事例研究	○	2					(2)	2			全教員	31-317
		卒業研究(1)	○	3							3	(3)	全教員	31-411
卒業研究(2)		○	3							(3)	3	全教員	31-412	

## 履修上の注意事項

## 各年次における条件等

## 1. 履修登録単位数の制限

卒業までの各1学期あたりの履修登録可能な単位数は、20単位を上限とする。ただし、科目によりこの制限に含めない場合がある。詳細は「履修要綱」の「3. 履修心得-8. 履修登録単位数の制限」を参照すること。

## 2. 単位修得状況や成績に関する指導

1年次前期終了時に修得単位が10単位未満\*の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行う。また、1年次終了時に修得単位が20単位未満\*の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行う。なお、いずれの場合も途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応する。

また、各年次終了時に、f-GPAが0.6未満の者には、退学勧告を行う。併せて、f-GPAの低い成績不振の者には個別面談を実施する。

## 3. 3年次進級条件

2年次終了時に修得単位が60単位未満\*の者は、3年次へ進級できず2年次に留年となる。

## 4. 卒業研究(1)着手条件

4年次になると各研究室に所属し、「卒業研究(1)」に着手するが、下記の条件を満たしていなければ着手できない。

		卒業研究(1)着手条件*	
総単位数		100単位 (ただし、下記の各要件を含むこと)	
分野通	合計	14単位	
	合計	67単位	
専門分野	学部基盤科目	必修科目10単位	
	専門科目	必修科目25単位	

## 5. 卒業研究(2)着手条件

卒業研究(1)の単位を修得済みであること。

## 6. 卒業要件

4年以上在学して、下記の卒業要件を満たした者は卒業となる。

		卒業要件*	
総単位数		124単位 (ただし、下記の各要件を含むこと)	
共通分野	合計	22単位	
	教養科目	10単位	
	外国語科目	8単位	以下を含むこと ○必修科目 4単位
	体育科目	1単位	以下を含むこと △選択必修科目 1単位
	PBL科目	3単位	○必修科目であること
専門分野	合計	98単位	
	学部基盤科目	30単位	以下を含むこと ○必修科目 15単位 △選択必修科目 2単位
	専門科目	68単位	以下を含むこと ○必修科目 37単位 △1選択必修科目 6単位 △2選択必修科目 2単位 △3選択必修科目 2単位 △4選択必修科目 ※ ※△1～4の合計で31単位

\*卒業要件非加算の単位数は含まない。

## 履修上の注意事項

## 1. 1～2年の学修に関して

- (1) 1年生は、学部基盤科目を幅広く修得することを心がける。また、1年次で履修すべき「専門科目」は1年次で確実に単位を修得すること。
- (2) 2年生は建築全般を幅広く学修することを心がける。特に建築学科共通の「専門科目」は建築専門のコア科目として位置づけられているので、確実に単位を修得するようにすること。
- (3) 3年次への進級に際し、最低60単位を修得することが義務付けられている。2年次終了時点での修得単位数がこれに満たない場合は、3年次に進級できない。
- (4) 各年度に準備された必修科目はその年度において修得することが望ましい。特に「建築構造力学基礎(1)～(4)」は1年次において修得するように最大の努力をすること。これらの単位を未修得の場合、以後の学修計画に差し支えるので十分に注意すること。

## 2. 3年の学修に関して

3年前期終了後に、「卒業研究(1)」「卒業研究(2)」を行う研究室への一次配属が行われる。研究室への一次配属は本人の希望を優先するが、希望する人数が研究室の定員を超えた場合は、3年前期終了時点での成績（設計系は「設計」を加重した成績）により上位の者から一次配属研究室を決定する。なお、振り分けは、「設計(5)、(6)」、「建築実験」、「建築製図演習」のいずれかの単位を取得している者から、成績の順位に従って行う。ただし第一志望による振り分けが終わった後は、通常通り、成績の順位に従って振り分ける。

3年後期に開講される、「事例研究」を必ず履修すること。この科目では、3年後期に一次配属された研究室で「卒業研究(1)」「卒業研究(2)」を行うために必要な事柄を少人数で学習する。授業の形態は各指導教員により様々であり、卒業研究に必須の基礎知識を習得することが目的である。研究室一次配属の手続きを怠った者は、「事例研究」を履修できないので留意すること。一次配属方法の詳細は3年前期の適切な時機に掲示等で連絡する。

## 3. 4年の学修に関して

卒業研究(1)、(2)着手条件は、「各年次における条件等：4、5」を参照すること。

4年次への進級条件が満たされたものは、一次配属された研究室への正式配属が決定し、卒業研究を開始する。「卒業研究(1)」「卒業研究(2)」には、卒業設計と卒業論文の2つがあり、どちらか一つを選択するか、または、両方を行うことも可能である。卒業設計のみを行う者は、原則として「図学」「設計基礎(1)～(3)」「設計(1)～(6)」、設計スタジオ(1)～(4)を履修することが必要である。但し、TAP生は設計(5)(6)、設計スタジオ(1)～(4)のうちから4科目以上を履修すること。

詳細については、4年次の適切な時機に掲示などで連絡する。

## 4. 他学科・他学部・他大学の科目の履修について

他学科・他学部・他大学の科目を履修したい場合は、「履修要綱」を参照し、建築学科における履修科目とのバランスを考えながら、効果的に履修すること。



## 5. 職業分野と学習の関連性

- (1) 就職先の分野は大別すると設計、構造、施工、設備、その他に分けられる。
- (2) 設計方面を志望する者は、設計(1)～(6)、設計スタジオ(1)～(4)を修得すること。推薦順位は設計科目の成績で決まることが多い。
- (3) 構造、施工、設備のいずれの分野を志望する者も、その専門分野に関係する科目を出来るだけ受講しておくこと。
- (4) 求人企業に対する推薦は3年次前期までの成績順位を考慮して行う。
- (5) 何れの分野においても最近は国際的な仕事や交流が増えているところから、外国語の修得に心掛けることが望ましい。

## 6. 大学院志望者へ

現在、産業界全般において修士修了者を歓迎する傾向がある。近い将来、企業の中堅以上の技術者は大学院修了者（修士または博士）の時代になると予想されるので、勉学に精励し意欲をもって進学を志望されたい。

- (1) 本学建築学科の大学院建築・都市専攻は修士課程2年及び博士後期課程3年からなり、2020年4月現在次の領域に分かれている。

修士課程：建築計画(勝又教授)、建築設計(堀場教授、手塚教授、福島教授)、住環境計画(天野教授)、  
建築構造学(西村教授、大村准教授、焦准教授)、建築生産・材料学(小見教授、佐藤准教授)、  
建築環境設備学(近藤教授、岩下教授、小林(茂)教授)

博士後期課程：建築計画(勝又教授)、建築設計、住環境計画(天野教授)、建築構造学(西村教授)、  
建築生産・材料学(小見教授)、建築環境設備学(近藤教授、岩下教授、小林(茂)教授)

質問は上記教員まで。

- (2) 建築の専門領域の広がり、世界的な建築教育の動向などを踏まえて、大学院への進学を強く推奨する。  
留学、インターンシップ単位なども踏まえて、3年次から4年間の自らの学習プログラムを担当教員と相談しながらつくるのが望ましい。その際には、大学院単位の先行履修制度、海外大学との単位互換制度なども活用することができる。

- (3) 交換留学制度について

修士課程の建築設計分野における交換留学制度として、希望者は在籍期間中に海外協定校に留学することが出来る。

### ■協定校および課程名

- ・AHO The Oslo School of Architecture and Design, Master of Architecture (Norway)
- ・KTH Royal Institute of Technology, School of Architecture and the Built Environment (Sweden)

### ■実施期間

修士課程1年次後期開始から2年次前期終了までの内、1期か2期を実施期間とする。修了後の希望進路に応じて実施期間の調整が可能である。

### ■単位認定

「東京都市大学認定留学に関する規程」に基づき、留学先の実績を本学での単位として認定を得ることが出来る。

### ■募集人数

協定校ごとに学期あたり2～3名を募集人数とする。応募が重なった場合は、成績、語学力、志望動機によって選抜する。

## 学習・教育目標と授業科目

「建築学科における学習・教育目標」と各授業科目の内容がどのように関連するのかが示したのが以下の表である。関連の程度は、◎が関連の程度が強いことを示し、○は関連の程度は比較的強いことを示している。空欄は関連の程度が比較的弱いことを示している。

1)	社会の発展に貢献できる能力の修得	国際化、少子高齢化、高度情報化、地球環境問題の顕在化、地域社会の希薄化など絶え間なく変化する社会から求められるものを常に自らに問い、建築分野における幅広い活動を通じて社会の持続的発展に貢献できる能力を修得する。
2)	総合的な建築学の基礎能力の修得	建築計画設計、建築生産・材料、建築構造、建築環境設備等の各専門分野にわたる建築学の基礎を、建築設計を中心において総合的に学修し、将来のより専門性の高い分野にも対応できる基礎能力を修得する。
3)	建築学の工学的な基礎知識の修得	建築学の工学的な基礎となる自然科学、情報技術に関する基本的知識を修得する。
4)	建築学の専門的能力の修得	①建築設計、建築・都市計画、建築意匠・歴史に関する専門的能力を修得する。 ②建築材料、建築構法、建築工法、建築施工に関する専門的能力を修得する。 ③建築構造、構造力学、構造設計、耐震・耐風工学に関する専門的能力を修得する。 ④建築環境、建築設備、都市環境に関する専門的能力を修得する。
5)	総合的な設計能力の修得	地球環境、少子高齢社会、高度情報社会、建築・都市防災など社会的な観点から建築、都市が抱えている現代的な課題を把握し、それに対して建築学の専門知識を総合し、与えられた制約条件の下で計画的に創造性豊かな解決策をまとめ、提案、表現する能力を修得する。
6)	建築家・建築技術者としての倫理観の修得	建築・都市の文化や法律を理解して建築設計等を適切に行うとともに、設計や技術が、人間、社会及び自然環境に与える影響を十分認識し、かつ問題に責任を持って誠実に対応できる専門家としての倫理観を修得する。
7)	コミュニケーション能力の修得	第三者に伝達したい内容を論理的に記述し、口頭で発表し、討論することのできるコミュニケーション能力、基礎的な国際的コミュニケーション能力を育成する。また、異なる知識・考えをもつ人間と共同して、プロジェクトに関する問題解決を行う能力を修得する。
8)	継続的な専門能力の向上と資格取得のための基礎学習能力の修得	本学科卒業後、生涯にわたり新しい建築学の知識を修得し、継続的な自己啓発ができる能力と建築士や技術士等の資格取得のための基礎学習能力を修得する。

### 学習・教育目標と授業科目の関与一覧表

区分	系統・科目群等	学習・教育到達目標											
		1)	2)	3)	4)-① 4)-② 4)-③ 4)-④				5)	6)	7)	8)	
		社会	建築学基礎	工学的な基礎	建築学専門				設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力	
教養科目	人文学系	○											○
	社会科学系	○											○
	人間科学系	○											○
	自然・情報科学系	○		○									○
	その他	○											○
体育科目	基礎体育(1a)	○											
	基礎体育(1b)	○											
	基礎体育(2a)	○											
	基礎体育(2b)	○											
	応用体育(1)	○											
	応用体育(2)	○											
外国語科目	英語科目(スキル)											◎	
	英語科目(教養)											◎	○
	共通											◎	○
	英語以外											◎	
PBL科目	SD PBL(1)	◎									◎	◎	◎
	SD PBL(2)	◎									◎	◎	◎
	SD PBL(3)	◎									◎	◎	◎





区分	科目群	授業科目	学習・教育到達目標										
			1)	2)	3)	4)-①	4)-②	4)-③	4)-④	5)	6)	7)	8)
			社会	建築学基礎	工学的な基礎	建築学専門				設計	倫理観	コミュニケーション	専門能力
設計計画	生産材料	建築構造				環境設備							
専門科目	建築基礎	図学		◎		○	○	○	○	◎			
		設計基礎(1)		◎		○	○	○	○	◎		○	○
		設計基礎(2)		◎		○	○	○	○	◎		○	○
		設計基礎(3)		◎		○	○	○	○	◎		○	○
		設計(1)		◎		○	○	○	○	◎		○	○
		設計(2)		◎		○	○	○	○	◎		○	○
		設計(3)		◎		○	○	○	○	◎		◎	○
		設計(4)		◎		○	○	○	○	◎		◎	○
		建築計画(1)		◎		◎				○			○
		建築材料(1)		◎			◎			○			○
		建築構法(1)		◎			◎			○			○
		建築構造力学基礎(1)		◎				◎		○			○
		建築構造力学基礎(2)		◎				◎		○			○
		建築構造力学基礎(3)		◎				◎		○			○
		建築構造力学基礎(4)		◎				◎		○			○
		建築環境工学(1)		◎					◎	○			○
		建築設備学基礎(1)		◎					◎	○			○
		建築設備学基礎(2)		◎					◎	○			○
	建築総合演習		◎			○	○	○	○	○			◎
	建築計画・設計	建築計画(2)		◎		◎				○			○
		西洋建築史		◎		◎				○			○
		日本建築史		◎		◎				○			○
		建築意匠論	○			◎				○			○
		設計(5)	○			◎				◎		○	○
		設計(6)	○			◎				◎		○	○
		設計スタジオ(1)	○			◎				◎		○	○
		設計スタジオ(2)	○			◎				◎		○	○
		設計スタジオ(3)	○			◎				◎		○	○
		設計スタジオ(4)	○			◎				◎		○	○
	空間デザイン演習				◎				○		○	○	
	建築工学	建築生産				○	◎	○	○				
		建築施工法				○	◎	○	○				
		建築材料(2)		◎		○	◎	○	○				○
		建築防災計画				◎	◎	◎	◎				
		建築構法(2)		◎			◎						○
		木質構造					◎	◎					◎
		建築構造力学(1)					○	◎					
		建築構造力学(2)					○	◎					
		建築構造力学(3)					○	◎					
		建築構造力学(4)					○	◎					
		建築構造力学(5)					○	◎					
		建築構造力学(6)					○	◎					
鉄筋コンクリート構造						○	◎	◎					
鉄骨構造						○	◎	◎				◎	
建築構造計画					○	○	◎						
地盤と基礎						○	◎						
耐震・耐風構造								◎					
建築構造設計					○	○	◎		○				
建築環境工学(2)			◎		○			◎				○	
建築環境工学(3)					○			◎					
建築設備学				○			◎						
建築設備学応用							◎				○		
建築音響学				○			◎						
建築工学モテリング(1)				○	○	◎	◎				○		
建築工学モテリング(2)				○	○	◎	◎				○		
卒業研究 関連科目	事例研究	○			◎	◎	◎	◎			○	○	
	卒業研究(1)	◎			◎	◎	◎	◎	○		◎	◎	
	卒業研究(2)	◎			◎	◎	◎	◎	○		◎	◎	



履修モデル

専門領域の科目一覧

区分	科目群	1年				2年				3年				4年		
		前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
学部基礎科目	数学系	微分積分学(1a)	微分積分学(1b)	微分積分学(2a)	微分積分学(2b)					ベクトル解析学						
	線形代数学(1a)	線形代数学(1b)	線形代数学(2a)	線形代数学(2b)	微分方程式論	数値解析学				フーリエ解析学						
	物理学実験(1)	物理学実験(2)	物理学及び演習(1)	物理学及び演習(2)	物理学(3)	物理学(4)										
	化学(1)		化学(2)	化学実験	生物学	地学										
情報系	情報リテラシー演習(a)	情報リテラシー演習(b)	プログラミング基礎(a)	プログラミング基礎(b)			数値解析									
総合系									インターンシップ(1)	技術者倫理	インターンシップ(2)	海外体験演習(1)	海外体験演習(2)			
学部共通	専門教養科目		都市のインフラストラクチャー			都市防災論	都市計画(1)		都市交通計画		都市計画(2)	都市・地域分析	インフラデザイン			
	キャリア開発(夏期集中)								建築実験							
	建築製図演習(1)	建築製図演習(2)							建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)						
	建築総合演習															
建築基礎	設計基礎(1)	図学	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)								
	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)								
建築計画・設計					西洋建築史	日本建築史	建築計画(2)	設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)	設計スタジオ(3)	設計スタジオ(4)			
								空間デザイン演習		建築意匠論						
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	建築構造力学(3)	建築構造力学(4)	建築構造力学(5)	建築構造力学(6)	耐震・耐風構造					
							鉄筋コンクリート構造	建築構法計画		地盤と基礎					建築構造設計	
							建築構法(2)	木質構造	建築材料(2)	建築生産	建築施工法	建築防災計画				
								建築環境工学(2)	建築環境工学(3)	建築音響学	建築設備学					
卒業研究								建築工学モデリング(1)	建築工学モデリング(2)					事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)

凡例  
 必修科目  
 選択必修科目 (学部基礎科目)  
 選択科目  
 選択科目 (配当年なし)  
 選択必修科目 (Δ1, Δ2, Δ3, Δ4)

履修モデル：総合 都市開発・不動産・積算・施設管理

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	設計基礎(1)	図学	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン			
	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)	建築実験	選択必修△1 都市計画(2)					
建築計画・設計						選択必修△1 西洋建築史	選択必修△1 日本建築史	選択必修△1 建築計画(2)	設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)			
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	選択必修△2 鉄筋コンクリート構造	建築環境工学(2)	選択必修△3 建築生産	選択必修△3 建築施工法					
卒業科目研究											事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)		

履修モデル：設計 意匠設計・住宅設計・インテリア設計

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	設計基礎(1)	図学	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン			
	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)	選択必修△1 都市計画(2)						
建築計画・設計						選択必修△1 西洋建築史	選択必修△1 日本建築史	選択必修△1 建築計画(2)	設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)	設計スタジオ(3)	設計スタジオ(4)	
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	選択必修△2 鉄筋コンクリート構造	建築環境工学(3)	選択必修△3 建築生産	選択必修△3 建築施工法					
卒業科目研究											事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)		

凡例  
 必修科目  
 選択必修科目  
 選択必修科目  
 △1, △2, △3  
 △4

履修モデル：環境 設備設計・施工管理（設備）

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	設計基礎(1)	図学	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン			
建築設計画・	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)	建築実験	建築製図演習(1)	建築製図演習(2)				
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	鉄筋コンクリート構造	建築環境工学(2)	建築材料(2)	建築生産	建築施工法	建築防災計画			
卒業研究									建築製図演習(1)	建築製図演習(2)			事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)

履修モデル：構造 構造設計・施工管理・技術開発

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系・学部共通・学科共通・建築基礎	設計基礎(1)	図学	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン			
建築設計画・	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築計画(1)	建築構法(1)	建築環境工学(1)	建築材料(1)	建築実験	建築製図演習(1)	建築製図演習(2)				
建築工学					建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	建築構造力学(3)	建築構造力学(4)	建築構造力学(5)	建築構造力学(6)	耐震・耐風構造				
卒業研究									建築製図演習(1)	建築製図演習(2)			事例研究	卒業研究(1)	卒業研究(2)

凡例  
 必修科目  
 選択必修科目  
 選択必修科目  
 Δ1, Δ2, Δ3  
 Δ4

履修モデル：生産 技術開発・施工管理・積算・施設管理

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
総合系 学部共通・ 学科共通・ 建築基礎	設計基礎 (1)	図学	設計基礎 (2)	設計基礎 (3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	建築CAD 演習(1)	建築CAD 演習(2)					
	建築構造 力学基礎(1)	建築構造 力学基礎(2)	建築構造 力学基礎(3)	建築構造 力学基礎(4)	建築構法 (1)	建築環境 工学(1)		建築材料 (1)	建築実験						
					建築計画 (1)	建築設備学 基礎(1)		建築設備学 基礎(2)	建築製図 演習(1)	建築製図 演習(2)					
建築計画・ 設計						選択必修△1 西洋 建築史		選択必修△1 日本 建築史							
								選択必修△1 建築計画 (2)							
建築工学					建築構造 力学(1)	建築構造 力学(2)		選択必修△2 鉄筋コンク リート構造		選択必修△2 鉄骨構造					
								選択必修△2 建築構法 (2)	選択必修△2 木質構造	地盤と基礎					
								建築環境 工学(2)	建築材料 (2)	選択必修△3 建築生産					
										選択必修△3 建築施工法					
											選択必修△2 建築構造 計画				
卒業 研究												事例研究		卒業研究(1)	卒業研究(2)

凡例  
必修科目  
選択必修  
科目  
選択必修  
科目  
 △1, △2, △3      △4



履修系統図

	1年				2年				3年				4年		
	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半	後期後半	前期前半	前期後半	後期前半・後半
数学系	微分積分学(1a)	微分積分学(1b)	微分積分学(2a)	微分積分学(2b)				ベクトル解析学							
	線形代数学(1a)	線形代数学(1b)	線形代数学(2a)	線形代数学(2a)	微分方程式論	数理統計学		フーリエ解析学							
自然科学系	物理学実験(1)	物理学実験(2)	物理学及び演習(1)	物理学及び演習(2)	物理学(3)	物理学(4)		電磁気学基礎							
	化学(1)		化学(2)	化学実験	生物学	地学									
情報系	情報リテラシー演習(a)	情報リテラシー演習(b)	プログラミング基礎(a)	プログラミング基礎(b)		数値解析									
学部共通			専門教養科目 都市のインフラストラクチャー		都市防災論	都市計画(1)		都市交通計画		都市・地域分析		インフラデザイン			
総合系					インターンシップ(1)	インターンシップ(2)		技術者倫理		海外体験実習(1)		海外体験実習(2)			
建築共通					キャリア開発(夏期集中)			建築CAD演習(1)	建築CAD演習(2)	建築総合演習					
								建築工学モデリング(1)	建築工学モデリング(2)						
実験・実習								建築実験	建築製図演習(1)	建築製図演習(2)					
建築設計	設計基礎(1)	図学	設計基礎(2)	設計基礎(3)	設計(1)	設計(2)	設計(3)	設計(4)	設計(5)	設計(6)	設計スタジオ(1)	設計スタジオ(2)	設計スタジオ(3)	設計スタジオ(4)	
建築計画					西洋建築史	日本建築史		空間デザイン演習	建築意匠論						
					建築計画(1)	建築計画(2)		都市計画(2)	都市デザイン	ランドスケープデザイン					
建築構造	建築構造力学基礎(1)	建築構造力学基礎(2)	建築構造力学基礎(3)	建築構造力学基礎(4)	建築構造力学(1)	建築構造力学(2)	建築構造力学(3)	建築構造力学(4)	建築構造力学(5)	建築構造力学(6)	耐震・耐風構造				
							鉄筋コンクリート構造	建築構造計画	地盤と基礎	鉄骨構造					
															建築構造設計
建築生産・材料					建築構法(1)	建築構法(2)	木質構造	建築生産	建築施工法	建築防災計画					
							建築材料(1)	建築材料(2)							
建築環境設備					建築環境工学(1)	建築環境工学(2)	建築環境工学(3)	建築音響学							
					建築設備学基礎(1)	建築設備学基礎(2)	建築設備学	建築設備学							
															事例研究
卒業研究															卒業研究(1)
															卒業研究(2)

凡例  
 必修科目 (学部基礎科目)  
 選択必修科目  
 選択科目 (配当学年なし)  
 選択必修科目 (Δ1, Δ2, Δ3, Δ4)

## 資格

### 一級建築士、二級建築士、木造建築士

#### 【資格内容】

一級建築士：国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者

二級建築士：都道府県知事の免許を受け、二級建築士の名称を用いて、設計、工事監理等の業務を行う者

木造建築士：都道府県知事の免許を受け、木造建築士の名称を用いて、木造の建築物に関し、設計、工事監理等の業務を行う者

なお、建築士の業務範囲は建築士法第3条、第3条の2、第3条の3により定められている。

#### 【受験資格】

■一級建築士の受験資格：本学建築学科卒業（「学歴要件」）後、すぐに、一級建築士試験を受験することができる。「実務経験」については、卒業から免許登録までに所定の年数以上必要となる。一級建築士試験に合格の上「実務経験」が所定の年数以上あれば一級建築士免許の登録が可能となる。

■二級建築士・木造建築士の受験資格：本学建築学科卒業（「学歴要件」）と同時に受験資格が得られる。

○学歴要件：「国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という。）を修めて卒業」とあり、本学建築学科の場合、卒業と同時に全員が「学歴要件」を満たす。

○実務経験要件：「建築に関する実務として国土交通省令で定めるものである設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務」である。なお、「建築実務の経験」として認められるものは下記の通りである。

- 1 建築物の設計（建築士法第21条に規定する設計をいう。）に関する実務
- 2 建築物の工事監理に関する実務
- 3 建築工事の指導監督に関する実務
- 4 次に掲げる工事の施工の技術上の管理に関する実務
  - イ 建築一式工事（建設業法別表第一に掲げる建築一式工事をいう。）
  - ロ 大工工事（建設業法別表第一に掲げる大工工事をいう。）
  - ハ 建築設備（建築基準法第2条第三号に規定する建築設備をいう。）の設置工事
- 5 建築基準法第18条の3第1項に規定する確認審査等に関する実務
- 6 消防長又は消防署長が建築基準法第93条第1項の規定によって同意を求められた場合に行う審査に関する実務
- 7 建築物の耐震診断（建築物の耐震改修の促進に関する法律第2条第1項に規定する耐震診断をいう。）に関する実務
- 8 大学院の課程（建築に関するものに限る。）において、建築物の設計又は工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的として建築士事務所等で行う実務実習（インターンシップ）及びインターンシップに関連して必要となる科目の単位を所定の単位数（30単位以上又は15単位以上）修得した場合に実務の経験とみなされる2年又は1年の実務

（注 実務経験要件等は今後、改正建築士法の詳細が制定されるのでそちらを参照してください。）

#### 【試験科目】

■一級建築士試験：

##### ①学科の試験

学科Ⅰ〔計画〕建築計画：建築積算等

学科Ⅱ〔環境・設備〕：環境工学、建築設備（設備機器の概要を含む。）等

学科Ⅲ〔法規〕：建築法規等

学科Ⅳ〔構造〕：構造力学、建築一般構造、建築材料等

学科Ⅴ〔施工〕：建築施工等

##### ②設計製図の試験

あらかじめ公表された設計課題についての設計製図

■二級建築士・木造建築士：

①学科の試験

学科Ⅰ [建築計画]

学科Ⅱ [建築法規]

学科Ⅲ [建築構造]

学科Ⅳ [建築施工]

②設計製図の試験

あらかじめ公表された設計課題についての設計製図

[問合せ先]

公益財団法人建築技術教育普及センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル

TEL 03-6261-3310(代表)

http://www.jaeic.or.jp/

[東京都市大学 工学部 建築学科における指定科目]

本学工学部建築学科は、建築士指定科目が認められた課程である。指定科目の分類に対し該当する科目は下表の通りである。

学校・課程名 東京都市大学 工学部 建築学科

指定科目の分類		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	備考
①建築設計製図 実務0～2年 (5単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	設計基礎(1)	1	必修	1	
		設計基礎(2)	1	必修	1.5	
		設計基礎(3)	1	必修	1.5	
		設計(1)	2	必修	2	
		設計(2)	2	必修	2	
		設計(3)	2	必修	2	
		設計(4)	2	必修	2	
		設計(5)	3	選択	2	
		設計(6)	3	選択	2	
		建築製図演習(1)	3	選択	2	
		建築製図演習(2)	3	選択	2	
		設計スタジオ(1)	3	選択	2	
		設計スタジオ(2)	3	選択	2	
		設計スタジオ(3)	4	選択	2	
設計スタジオ(4)	4	選択	2			
②～④ 建築計画, 建築環境工学 又は建築設備 実務0～2年 (7単位以上) 実務3～5年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築計画(1)	2	必修	2	
		建築計画(2)	2	選択	2	
		西洋建築史	2	選択	2	
		日本建築史	2	選択	2	
		都市計画(2)	3	選択	2	
	建築意匠論	3	選択	2		
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境工学(1)	2	必修	2	
		建築環境工学(2)	2	選択	2	
		建築環境工学(3)	3	選択	2	
		建築音響学	3	選択	1	
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備学基礎(1)	2	必修	1	
		建築設備学基礎(2)	2	必修	1	
		建築設備学	3	選択	2	
		建築設備学応用	3	選択	2	

指定科目の分類		指定科目に該当する科目					
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	備考	
⑤～⑦ 構造力学, 建築一般構造又は建築材料 実務0～2年 (6単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	建築構造力学基礎(1)	1	必修	1		
		建築構造力学基礎(2)	1	必修	1		
		建築構造力学基礎(3)	1	必修	1		
		建築構造力学基礎(4)	1	必修	1		
		建築構造力学(1)	2	選択	1		
		建築構造力学(2)	2	選択	1		
		建築構造力学(3)	2	選択	1		
		建築構造力学(4)	2	選択	1		
		建築構造力学(5)	3	選択	1		
		建築構造力学(6)	3	選択	1		
			地盤と基礎	3	選択	2	
			耐震・耐風構造	3	選択	2	
		⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築構法(1)	2	必修	2	
			建築構法(2)	2	選択	1	
			木質構造	2	選択	1	
			鉄筋コンクリート構造	2	選択	2	
			建築構造計画	2	選択	2	
			鉄骨構造	3	選択	2	
		⑦建築材料 (2単位以上)	建築材料(1)	2	必修	2	
			建築材料(2)	3	選択	2	
	建築実験		3	選択	2		
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築生産	3	選択	2		
		建築施工法	3	選択	2		
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	技術者倫理	3	必修	2		
⑩その他	⑩その他	図学	1	必修	1		
		建築CAD演習(1)	3	選択	1		
		建築CAD演習(2)	3	選択	1		
		空間デザイン演習	3	選択	1.5		
		都市デザイン	3	選択	2		
		ランドスケープデザイン	3	選択	1		
		建築工学モデリング(1)	3	選択	1		
		建築工学モデリング(2)	3	選択	1		
		建築防災計画	3	選択	2		
		<p>一級建築士試験の受験に必要な単位数は、上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計30単位を含め、合計60単位以上※</p>					
<p>二級・木造建築士試験の受験に必要な単位数は、 建築実務の経験0年：上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計20単位を含め、合計40単位以上</p>							

※本学建築学科では、卒業要件を満たす(卒業することによって、「上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計30単位を含め、合計60単位以上」を満たすようになっており、卒業後すぐに一級建築士試験の受験ができる。また免許登録に必要な実務経験の合計は「2年」となる。